

には、リンクがあります。 は、WAMNETの事業者情報にリンクします。

事業所名	グループホーム みらい
日付	平成19年3月31日 特定非営利活動法人
評価機関名	ライフサポート
評価調査員	在宅介護経験15年
評価調査員	ケアセンター介護支援専門員経験5年
自主評価結果を見る (まだリンク先はありません)	
評価項目の内容を見る	
事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)	

外部評価の結果

概評
全体を通して(特に良いと思われる点など) 「遠き世にかけりしことをあらわしてあれば…みらい」である。名は体を表わすというが、まさにこのホームの理念の象徴ともいえようか。名付けの由来は問うていないが、利用者の過去を大切に、家族と共に「現在と未来に笑顔広がるやすらぎの場所」を提供するグループホームを色々な場面で見ることが出来た。 2つのユニットは、管理者や職員、利用者によって雰囲気が違うが、それぞれが、利用者の人間性や人生などをうまく生活の中に溶け込ませて、今を明るく楽しい充実した生き甲斐にしてあげている事である。 一方のユニットは、男性が3人居るが、それぞれの人の知的な能力と趣味を活かしてドリルをしたり、百人一首のカルタ取りをしたり、漢字合せのカルタをする。又個人の趣味から作品作りをしてリビングルームを飾っている。「静」の風が漂っている。 片方のユニットは、女性が少し多いが、テーブルを殆どの人が囲んで、家族の人がリーダーとなって歌を皆で唄うのが好きで、よく歌う。今日も家族と共に合唱していた。それと、皆でよく話し合いをする。何か和気藹々で「動」の風が漂っている。 いずれも、皆と共同生活をする場面でも、個人の時間を過ごしている時でも、利用者一人ひとりの能力や性格と経験を尊重して、その人のペースを大切に、コミュニケーションによって常に利用者同士あるいは利用者と職員で心の交流をしている居心地の良いホームである。 自己評価でも、自分のホームの業務や利用者・家族・地域へのサービス提供の実体をよく分析し、改善すべき点を具体的に表出している。この点を更に目標値や客観的な計画を立案して、外部評価と共にホームの業務改善に結び付けていければ良いと考える。評価機関としてなすべき責任も果たしているようホームと協力していきたい。
特に改善の余地があると思われる点 次のような提案をした 利用者の過去と現在の生活歴や人間本質の情報として蓄積して、介護計画やコミュニケーションのきっかけに活かす事を考えて欲しい、又先行きの利用者の状態も一人ひとり予測してケアの方針に結びつけられたらどうかと思う。 家族と地域との関わりは今でも十分であるが、きっかけ作りの企画や人間関係作りによっては、もっと面白い場面も作れそうだ。何をするのも楽しんですることを考えて欲しい。

Ⅰ 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か 何をすることも、その人の目指すものは何か、何をしたいか、どんなことをするのかなどを関連する相手に伝え、それを基本に実行しなければならない。これが事業をする者の「理念」である。グループホームであれば、認知症高齢者やその家族に対する「サービスのあり方」を具体的に端的に示し、地域にも協力関係を作らねばならない。このグループホームでは理念は掲げているが、自己評価でも指摘しているように、職員も新しい人も多いため、もう一度、心機一転して、理念の目指す具体的な実施計画を立て、業界に、地域に、そして利用者や家族に理解してもらって欲しい。家族や地域との関係作りも十分機能しているが、理念の反映するところは、発展の礎にもなるだろうし、職員の質やホームのサービスの質の向上につながる。まして、グループホームの特長を端的に世の中に知ってもらえる絶好の機会でもある。		

生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か 1階と2階にそれぞれのユニットがある。広いスペースのリビングルームと対面式の厨房があり、大きなテーブルは食卓と寛ぎの時間を過ごす兼用の場と鳴っている。その他にソファがあり、テレビを見る。座敷風の空間もある。利用者はそれぞれの場所で皆で楽しんだり、友達同士で話しをしたりする。お気に入りの場所でゆっくりと過ごすことが出来る。 自分一人の空間は、自分の思い通りの部屋作りをして、一人の暮らしを楽しむ。部屋の中やリビングルームには、その人の作品が飾ってあり、自己実現の場でもある。 外には、広い庭があり、花壇や菜園がある。季節が良くなれば、花々や野菜で色彩やかになるだろう。ここは、もう少し使い熟して欲しい所である。		

ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のペースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人で行えることへの配慮		
15	入居者一人ひとりに合わせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		

Ⅲ ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援		
20	プライドを大切にした整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物物の支援		
23	痴呆の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か 食事の準備や調理、盛り付け、配膳、食後の片付け等は、利用者が出る範囲で手伝ったり、自分の仕事としての役割を持っている。盛り付けは、その人の健康状態によって変えているが、本人にはその差が分からないよう工夫している。そして自分の出来ることはしないとボケるからとよく言う。 グループホームで利用者に「お元気ですか？ 身体で悪いところありますか？」と聞くと、「身体は元気だがね、ここが悪いんで」と頭を差し出す人が多い。ここにいたら頭がボケてしまっていると自覚しているのかどうか、その時「誰だってボケますよ。ボケは歳を取った勲章ですよ」と言う。認知症になると話が出来ないという人もたくさんいる。話せないじゃなくて、話をさせていないことも多い。このグループホームでも、発語のない人に「大きな声で話して」と激励しているが、数多い言葉が単発で良いから長く続けられるような問いかけの工夫も必要と思う。2～3年後の状態を想定して研究もしておいて欲しい。		

Ⅳ 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
33	家族への日常の様子に関する情報提供		
34	地域との連携と交流促進		
35	ホーム機能の地域への還元		
記述項目	サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か。 このグループホームの利用者は、この地域附近の人が多く、家族の訪問は多い。利用者や家族の関係が上手いってなかった家族にも、職員の介添えによって関係修復出来た人も聞くと聞く。利用者がホームに居ると、家族は自分達の生活は身体も心もストレスが軽減され、気持ちに余裕が出来るので、利用者とも優しく接することが出来る。家族には、家族でしか出来ない一番大切な心の交流が出来る。利用者にも安心感を与えることが出来る。このような家族の絆を良い面に仕向けているのが、このホームの良さでもある。 ボランティアが訪問したり、色々な所へ出掛けたり、外出して地域の人々とも交流は進んでいる。運営推進会議も活用して、そのパイプをどんどん膨らませていって欲しい。		